

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 31 日現在

機関番号：32643

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520300

研究課題名(和文) 19 - 20世紀英版文学図像のオリент表象にみる東西交差の系譜とポスト植民地主義

研究課題名(英文) Post-colonialism and Intercultural Encounters: Oriental Images in English Book Illustrations in the Nineteenth and Twentieth Centuries

研究代表者

千森 幹子(Chimori, Mikiko)

帝京大学・外国語学部・教授

研究者番号：20236821

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、ポストコロニアル的観点から、1860年代から1920年代にいたる英版文学図像におけるオリент表象を、政治社会文化美術的背景から、西洋と日本(東洋)の交差として、考察する学際研究であり、カルチュラルスタディーズである。

本研究では、ケーススタディとして取り上げた文学作品図像に見るオリент表象を、中東・中国・日本イメージの混在・分化・変容の過程から考察し、この時期、英国がなぜオリентに魅惑され、何を受容表象しようとしたのか、その現実との乖離を、政治(植民地政策等)文化美術社会ジェンダーなど多領域から検証し、西洋的価値体系におけるオリент表象の位相を解明することを、目的とする。

研究成果の概要(英文)：This intercultural project deals with oriental images in English illustrated books from the 1860s to the 1930s. Employing a post-colonial matrix of interpretation, it examines the political, social, cultural, and artistic interchanges between Japan (representing "the East") and Britain (representing "the West") and the construction of "the Orient" in the British imagination. Special attention is paid to the processes by which oriental images of Japan, China and Islam became intermixed, differentiated and transformed.

研究分野：人文学

キーワード：比較文化 カルチュラル・スタディーズ ポストコロニアル 図像 表象 オリент

1. 研究開始当初の背景

国内外の関連する研究の中での当該研究の位置づけを、次のように判断し、当該研究の学術的な特徴・独創性を確認し、研究申請と研究を行った。

(1) 文学作品と図像に関わる研究：

文学作品とその図像研究は、近年、注目されはじめています。しかし、ポストコロニアル観点に立脚した英版文学作品の挿絵研究は、極めて少ない。さらに、申請者の知る限り、ポストコロニアル観点から英版図像におけるオリент表象の混在・分化・変遷を論ずる研究は、申請者が研究代表者として、科学研究費補助金(基盤研究C)の交付を受けた二つの研究「ポストコロニアル的観点から考察した日英『ガリヴァー旅行記』図像にみる少年性」(2005-2008年度)「ポストコロニアル的観点から考察した日英文学図像にみるオリент表象の分化と変容」(2009-2011年度)のみである。

(2) ポストコロニアル的観点からの図像研究：

先行研究として、東田雅博『図像のなかの中国と日本』(1998)があるが、扱う領域は、ヴィクトリア朝の新聞雑誌に限定されている。一方、本研究は、時代を1860~1920年代に、研究領域を、英(米)版文学作品図像へと、広げるものである。

(3) 英版挿絵本におけるオリент表象研究：

英版挿絵画家、たとえば、ウォルター・クレイン、ハリー・クラークなどの作品がジャポニズム技法の影響を受けているという論じる研究はすでにある。しかし、こうした研究は、美術様式や日本の美術工芸品との関係を問うことはあっても、本研究に見るような、英国の文化政策や植民地政策や帝国主義政策などの多角的視点から問う研究は従来なかった。

(4) アラビアンナイト挿絵研究

また、本研究が、ケーススタディーとして扱う作品のひとつである『アラビアンナイト』の挿絵研究としては、数本の研究(Robert Irvinの*Visions of the Jinn*, 2011やKazue Kobayashiの論文等)があり、本研究が扱う挿絵画家の作品へのジャポニズムの影響を、部分的に、指摘する研究(*The Age of Enchantment*, 2007等)もあるが、いずれも、美術史的研究に限定されている。一方、本研究は、単なる美術史的図像研究にとどまらない学際研究である。

本研究は、日中のオリент表象に、イスラムを、加え、その混在の様態を問題化しつつ、西洋から東洋、および、東洋(日本)から西洋という複合的な視点を交え、1860年代

から1920年代にいたる英版文学図像を、ポストコロニアル的観点に立脚し、日英欧の政治・社会・文化・ジェンダーなどの文脈から読み解く学際研究である。

(5) 国際的な評価：

本研究が研究手法を継承発展した研究代表者による先行研究：

・単著“Sense in Nonsense: The *Alice* Books and Their Japanese Translators and Illustrators” (イースト・アングリア大学、博士論文、2003)

・国際学会での発表：

‘Tove Jansson’s *Alice* Illustrations,’ Tove Jansson Conference, 24 March, 2007, Oxford University (Oxford, UK)

‘Oriental Illustrations of *Alice*,’ ASH Colloquia, 26 September 2006, Clare Hall, University of Cambridge (Cambridge, UK)

ケンブリッジ大学のGillian Beer教授とイースト・アングリア大学の元指導教授Clive Scott教授から、本研究の独創性を評価され、共同研究の内諾をえる。

2. 研究の目的

本研究は、ポストコロニアル的観点から、1860年代から1920年代にいたる英版文学図像におけるオリент表象を、政治社会文化美術的背景から、西洋と日本(東洋)の交差として、考察する学際研究であり、カルチュラルスタディーズである。本研究では、ケーススタディーとして取り上げた文学作品図像に見るオリент表象を、中東・中国・日本イメージの混在・分化・変容の過程から考察し、この時期、英国(欧州)が、なぜオリントに魅惑され、何を受容表象しようとしたのか、その現実との乖離を、政治(植民地政策等)文化、美術、社会、ジェンダーなど多領域から検証し、西洋的価値体系におけるオリント表象の位相を解明することを、目的とする。

具体的な目的は、次の4点である。

(1) 1860~1920年代の英版文学図像のなかで、顕著なオリント表象が見られる文学作品・挿絵画家を特定、資料収集、デジタル資料作成・分類

(2) オリント表象(イスラム、中国と日本など)の混在と変遷、東西交差の様態を、歴史的観点、日英近代史における、ポストコロニアル、社会的観点、文化美術的観点から考察し、この時期における英文学図像における、オリント表象の特性を解明する

(3) 海外研究者との共同研究

● Dame Gillian Beer教授(ケンブリッジ大学)19・20世紀英文学の分析

● Clive Scott教授(イースト・アングリア大学)英米欧文学と視覚芸術の分析

(4) 成果発表

3. 研究の方法

(1) 先ず、研究の第一歩である、英米欧文学挿絵に関わる資料検索収集、文字および画像テキスト複写とデジタル化、インデックス化

収集方法:

- 購入: 画像資料は、色調手触り等を検証するためできる限り購入。
- 資料所蔵図書館での調査/複写
英国: British Library (London)
Cambridge University Library(Cambridge)
など
米国: Princeton University Library (Princeton)

(2) 海外共同研究者との共同研究:
調査収集したデータをもとに、共同研究者との共同研究により、本研究に広範囲重層的な視点を提供する。

- ケンブリッジ大学 Dame Gillian Beer 教授(英文学文化に関わる碩学)文学テキストと画像研究、および19世紀~20世紀英国社会文化文学批評を扱う本研究においては、英文学文化に対する同氏の碩学は不可欠である。
- イースト・アングリア大学 Scott 教授(映像研究、ヨーロッパ文学、比較文学)英国版文学画像に、英国にとどまらぬヨーロッパ的広義な視点を提供するとともに、挿絵に映像芸術という重層的な視点を提供。

(3) 研究資料の分析:

収集された画像・文字資料の分析

欧米版画像・資料:『ガリヴァー旅行記』『アラビアンナイト』『アンデルセン童話集』など先の研究からの継続資料と、その他の『童話集』などの新規の資料ウォルター・クレイン、ハリー・クラーク、カイ・ニールセン、チャールズ・ロビンソン、ヒース・ロビンソンなどオリент表象と関連する画家による挿絵本万国博覧会、ジャポニズム、『ミカド』関連など

4. 研究成果

(1) 資料収集・整理・デジタル化

イギリス版(一部フランス・ドイツ・アメリカを含む)『アラビアンナイト』関連画像の収集、整理(1719~1950年代):合計83種。(先のプロジェクトで収集した資料を含む)複写した資料のうち、95パーセント程度、デジタル資料に変換。購入資料は、10パーセント程度、デジタル化。残りの資料のデジタル・インデックス化は、今後の課題。

イギリス版『アンデルセン童話集』関連画像の収集、整理(1846~1940年代):合計178種(先のプロジェクトで収集した資料を含む)複写した資料のうち、80パーセント程度、デジタル資料に変換。購入資料は、5パーセント程度、デジタル化。

その他のイギリス版挿絵本:チャールズ・ロビンソン(3種類)、ジェッシー・キング(3種類)、エドモンド・デュラック(5種類)、カイ・ニールセン(2種類)など。以上は購入資料が中心であるために、5パーセント以下のデジタル化

(2) イギリスを中心とした欧米『アンデルセン童話集』挿絵185版(1846~1940年代)における西洋表象とオリент表象(中東・中国・日本表象)のデータ収集解析。

具体的には、欧米『(アンデルセン)童話集』画像の出版年代と冊数、出版地域、オリент表象の地域と冊数、オリент表象の対象、オリент表象の出版年代と冊数と日本表象と中国表象の混在・分化などに分類。

出版年代と冊数:総計185冊

1840年代:6版
1850年代:3版
1860年代:6版
1870年代:27版
1880年代:16版
1890年代:14版
1900年代:26版
1910年代:31版
1920年代:22版
1930年代:12版
1940年代:22版

出版地域

英国:175版
アメリカ:9版
スイス:1版

オリент表象の地域と冊数(元の物語と関係なく現れた場合):

A.中東:17版
B.中国:32版
C.日本:32版

オリент表象の対象

A.中東表象:人物(男・女)、衣服、建物など
B.中国表象:女性、衣服、髪型、ランタン、生花など
C.日本表象:衣服(着物・羽織袴)、女性(芸者・和服姿)髪形、ランタン、傘、いけばな、欄干、日本の文様、デザインなど

オリент表象の出版年代・冊数

A. 中東表象：1946 - 1945 年・16 種

B. 中国表象：1946 - 1947 年・29 種

C. 日本表象：1860 - 1947 年・34 種

日本表象と中国表象の混在と分化

1860 不明の画家 日本と中国風な像

1883 不明の画家 「ナイチンゲール」着物
や日本髪的女性に

1883 不明の画家 日本の着物、芸者が混在

1893 Arthur J. Gaskin 日中風着物など

1899 William Robinson 日本風の着物が混在

1900 Hans Teger and GH Edwards 日中風衣裳
や帽子、髪型

1904 Audely J. Watson 傘

1907 Helen Stratton 中国風髪型と日本風
着物

1910 Maxwell Armfield 衣服、ランタンに
混在

1910 Katharine Cameron いけばなに混在

1930s 3 種：明確な日本表象

1942 Fritz Kredel 日本と中国風髪と服

1947 日本と中国の混合：船

なお、物語の内容が、オリントの国々と
直接関わる作品、たとえば、「ナイチンゲ
ール」における中国表象や「空飛ぶトラン
ク」における中東表象などのオリント表象は
除外した。

なお、上記の資料を分析した、中東表象、
中国表象、日本表象に関する詳細な研究成
果は、今後の論文・著書で論じる予定である。

それ以外のオリント表象の混在

- 日本と西洋表象の混在：
1943 年版の一例がある。ここではナ
イチンゲールの女性の髪形と服装に
その混在が認められる。
- 中東と西洋表象の混在：
6 種程度（1866 - 1945 年）
- 中東と中国表象の混在：
1 種、1884 年版

(3) 『アンデルセン童話集』におけるオリ
ント表象分析によって、解明されたオリ
ント表象の特徴：

『アンデルセン童話集』において、オリ
ント表象が出現する物語は、「ナイチ
ンゲール」「空飛ぶトランク」「人魚姫」
「王様の新しい服」など数話に限定さ
れる。

オリント表象のうち、中東・中国表象
は、今回調査分析した初期の作品である
1840 年代から 1940 年代ごろまで一貫し
て出現した。

日本表象がはっきりと出現するのは、
1870 年代から 1930 年代までの期間が中

心である。特に顕著に現れたのが、1880
年代半ばから 1910 年代まで、そして 1930
年代にその傾向は再燃した。

しかし、中国表象との混合の形として
の日本表象は、すでに、1860 年代半ばに
出現し、その傾向は 1940 年代まで継続。

中東表象は、西洋表象との混在のかたち
で出現することが多く、作品も、たとえ
ば、「人魚姫」の宮殿や王子の服装や外観、
「空飛ぶトランク」の町並みなどに限定
されており、数もその他のオリント表
象に比較して少ない。

中国表象は、元々中国の話である「ナイ
チンゲール」は別にして、初期の 1840 年
代は西洋表象との混在のかたちに、さら
に 1860 年代からは日本表象との混在の
かたちで出現する。しかし、1930 年代以
降は、一部、純粋な中国表象も見られ、
中国に対する挿絵画家の認識が、この頃
になると、明晰になってきたと判断でき
る。

日本表象は、中国表象との混在・混合の
形が多い。しかし、1930 年代の作品には、
中国表象との混在は見られず、純粋な日
本表象が見られる。中国表象との混在は、
とくに、中国の物語である「ナイチンゲ
ール」などで、顕著に見られる。その他
の物語でも、日本イメージは、女性登場
人物や事物（傘、ランタン、建物など）、
衣裳や髪型、さらに美術様式などに多く
みられる。

一部の例外を除き、西洋および中東表象
と日本表象の混在は少ない。

日本表象として多く出現するのは、着物、
髪型、傘、ランタン、日本の意匠デザイ
ンなどである。

以上、『ガリヴァー旅行記』『アラビアン
ナイト』『アンデルセン童話集』やその他の英
版挿絵本に見るオリント表象研究の一部
は、2012 年出版の拙論「英版『アラジン』画
像にみるオリントイメージの混在と融合

日本表象を中心として」『世界文学総合目
録』（研究編）』（大空社、2012 年）で詳細に
発表しているので、参照。さらに、今後、こ
れらの挿絵本全般にわたるオリント表象
を、著書としてまとめる予定である。

(4) 日本表象がみられる主要英版挿絵の年
代別リスト：

1913 年、チャールズ・ロビンソン (Charles
Robinson) 挿絵 (英)

1915 年、ジェッシー・キング (Jessie M.
King) 挿絵 (英)

1899 年、ウィリアム・ヒース・ロビンソ

ン (William Heath Robinson) 挿絵 (英)
1908-1936 年 5 冊、エドモンド・デュラック (Edmund Dulac) 挿絵 (英)
1930 年、カイ・ニールセン (Kay Nielsen) 挿絵 (英)

(6) その他の欧米版挿絵本
J.J. グランヴィル (Grandville) 5 冊 挿絵 (仏)
エルンスト・クライドルフ (Ernst Kreidolf) 6 冊 挿絵 (スイス)
その他 9 冊

(5) 本研究の海外発信
Mikiko Chimori, 'Gulliver in the Orient,' Clare Hall Colloquium, 2015 年 3 月 24 日 Clare Hall, University of Cambridge (Cambridge UK)

本発表は、研究代表者が、2005 年から 2014 年度までに、科学研究費補助金を受けた今回を含む三つの研究「ポストコロニアル的観点から考察した日英『ガリヴァー旅行記』図像にみる少年性」(2005-2008 年度 課題番号: 17520215)、「ポストコロニアル的観点から考察した日英文学図像にみるオリент表象の分化と変容」(2009-2011 年度 課題番号: 21520270)、「19-20 世紀英版文学図像のオリент表象にみる東西交差の系譜とポスト植民地主義」(2012-2014 年度 課題番号: 21520270) - の成果の一部を国際的に発信した研究成果である。

本発表は、発表時のパワーポイントと録音音声、Clare Hall Colloquium として、インターネット発信されている。
(https://upload.sms.cam.ac.uk/media/1944003?format=mpeg4&quality=high&fetch_type=dl)

2015 年 4 月から現時点 (2015 年 5 月 26 日) までのほぼ二ヶ月の間に、このビデオを見た人は、のべ 102 人、1 週間単位では 10~15 人にのぼる。主にアメリカ合衆国が中心であるが、世界的に注目されていることが分かる。

(7) 英版文学作品図像における表象研究

現在、上記で収集調査分類した英版文学作品図像における表象を調査し、いくつかの作品や画家に的をしばり、収集調査研究中である。

さらに、その研究は、研究代表者が、科学研究費補助金 (2015~2018 年、基盤研究 C) を受けた研究、「近代日英図像に見る anthropomorphic 表象の変遷とエコクリティシズム」(課題番号: 15K02317) に、継続され発展される予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 1 件)

千森幹子、「二つの『アリス』物語と It-Narratives」、『第 86 回大会 Proceedings』、73-74. 2014 年、依頼原稿

[学会発表](計 3 件)

Mikiko Chimori, 'Gulliver in the Orient,' Clare Hall Colloquium, 2015 年 3 月 24 日 Clare Hall, University of Cambridge (Cambridge UK)

千森幹子、「二つの『アリス』物語と It-Narratives」、シンポジウム「『生き・モノ・語り』 It-Narratives と近代イギリス文学」、日本英文学会第 86 回大会、2014 年 5 月 24 日、北海道大学 (北海道・札幌市)

千森幹子、「花のフェアリーの表象 19 世紀から 20 世紀の図像から」、シンポジウム「fairy・妖精・フェアリーのはざまから、受容を考える: 翻訳と表象」、日本イギリス児童文学会第 43 回研究大会、2013 年 10 月 27 日、大阪国際交流センター (大阪府・大阪市)

[図書](計 5 件)

千森幹子、『表象のアリス テキストと図像に見る日本とイギリス』法政大学出版局、1-438. 2015 年

千森幹子、「日本のアリス挿絵に見る流れの表象」、『ルイス・キャロル・ハンドブック アリスの不思議な世界』七つ森書館、206-216. 2013 年

Mikiko Chimori, 'Alice in Japan,' *Illustrating Alice: An International Selection of Illustrated Editions of Lewis Carroll's Alice's Adventures in Wonderland and Through the Looking Glass*, Artists' Choice Edition, 62-69. 2013.

千森幹子、「英版『アラジン』画像にみるオリエンティメージの混在と融合 - 日本表象を中心として」、『世界文学総合目録 (研究編)』、大空社、430 - 459. 2012 年

千森幹子、『ポストコロニアル的観点から考察した日英文学図像にみるオリент表象の分化と変容』(平成 21~23 年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究 (C) 成果報告書、1-6. 2012 年

[その他]

ホームページ等

- http://jglobal.jst.go.jp/detail.php?JGLOBAL_ID=200901065374195240&q=%E5%8D%83%E6%A3%AE%E5%B9%B9%E5%AD%90&t=0

- https://upload.sms.cam.ac.uk/media/1944003?format=mpeg4&quality=high&etch_type=dl

6 . 研究組織

(1)研究代表者

千森 幹子 (CHIMORI MIKIKO)

帝京大学・外国語学部・教授

研究者番号 : 20236821

(2) 研究協力者

Dame Gillian Beer

Professor, Faculty of English, University
of Cambridge

Clive Scott

Professor, School of English and American
Studies, University of East Anglia